

令和元年5月27日

清水町議会議長 加 来 良 明 様

清水町議会厚生文教常任委員会
委員長 高 橋 政 悦

所 管 事 務 調 査 に つ い て

常任委員会活動として行う所管事務調査について、このたび調査を終えたので、その結果を下記のとおり報告いたします。

記

1. 調査事項 (1) スクールバスの運行について
 (2) 文化センターの改修状況と今後の運営について

2. 調査期日 令和元年5月20日

3. 調査の結果

- (1) スクールバスの運行について

熊牛第一中学校ほか3校の閉校に伴い、昭和46年度から運行開始となったスクールバスについて、その運行管理体制、運行実績、将来的に課題となる事項について学校教育課より説明を受けた。

運行管理体制は、昭和51年度よりスクールバスの住民利用(混乗)による運行が開始され、平成6年度からは一部路線を民間委託し、平成12年度からは行政改革の一環として、民間活力活用の観点から民間委託を計画的に進め、平成25年度に全面委託が完了し現在の運

行体制となった。

路線設定については、安全面を考慮し、幅員のある道路でかつ除雪路線である最短の経路を選定するほか、新入学児童等の乗車動向により毎年検討している。

運行実績については遠距離の児童生徒の通学確保にとどまらず、小中学校の学習活動等にも利用され、登下校以外の利用率は年間走行距離数ベースで約 30%にも及ぶ。

今後の課題として懸念されるのは、運転技術員の確保であり、現在の年齢構成が 40 歳代 1 名、60 歳代 7 名と高齢になっていることから、早急に委託業者と検討を行い、将来に向けた対策を講じる必要がある。

また、本年度から開始した町が社会福祉協議会へ委託運行する「部活動等送迎事業」の運用に関しては、スクールバスの運行と並行して、町民がより効率的に活用できるよう分かりやすい運行スケジュール等の周知を希望する。

(2) 文化センターの改修状況と今後の運営について

平成 30 年度から 2 か年にわたり行われる文化センター大規模改修工事の概要と維持管理、運営の概要について、社会教育課より説明を受けた。

文化センター大規模改修工事の概要については、平成 30 年度中に終了した文化会館側の耐震補強、天井改修、舞台照明・吊物更新、音響設備更新、照明器具の LED 化、老朽箇所の改修について説明を受けた後、現地を確認した。

また、今年度に改修予定の中央公民館側については、その改修計画について説明を受けた後、外壁及び老朽化による改修予定箇所等を現地で確認した。

現地の確認をした中で、築 40 年近くを迎え、今回の大規模改修計画は長期にわたり快適に利活用できるように設計されたと思うが、町民の利用率が高い大集会室の床、壁の老朽化に対する改修計画がなく、近い将来再度改修工事が必要となる可能性が高いと考える。

将来的には微細な改修にとどめられるよう今回の大規模改修時に大集会室の床、壁の改修計画を再度検討すべきと考える。

文化センターの運営については、維持管理・運営経費の面から説明を受けた。大ホールの舞台業務の現状としては、町民利用による舞台に要する日数は年間概ね 150 日で、今まで町職員を中心に直営で対応してきており、大規模なものは 5 人程度の人員が必要な場合もあり、時間外勤務の増加など職員への負担は大きくなっていった。このことから、平成 29 年度からは一部、専門的な業者への委託を導入し、舞台の内容に応じて、随時 3 社の業者に依頼するなど、主催者が求めるニーズに応じている。

今後の舞台業務の運営について、総合プロデュースの部分は、安全管理を含めて相当の経験・技術力が求められることから、すべて専門の業者へ委託する方向で検討を進めている。他の自治体においても舞台業務の人材確保に課題があり、今後はより効率的な運営を目指すため、文化センターの貸館業務や舞台業務について、民間委託の手法を含め、あらゆる方向性をもって検討していくとのことである。

本委員会からは、文化センターの今後の運営について、「社会教育関係団体の活動拠点として町民と職員との接点は大事である」、「現状の直営と一部委託の運営のままでよい」、「どのようなホールを目指すべきかのビジョンを明確にすべき」、「舞台業務は直営ではなく専門業者へ委託したほうがよい」、「文化の町にふさわしいように町民の文化芸術の鑑賞機会を充実すべき」など様々な意見が出た。今後においては、新しい機材等を有効に活用できる環境の確保と、文化活動の拠点として確立されることを期待し、所管事務調査の報告とする。